

V. 建設業の振興と生産性向上

1. 建設業の振興と生産性向上

担い手の確保・育成

▶ 生活や経済を支える「建設業」の、担い手不足の解消に向けた取組

中学校や高校で行われている「キャリア教育」等を通じて、建設業関係者が若い世代に建設業の仕事や魅力を伝える取り組みを支援しています。また、県内技術者の技術力向上のため、資格取得に向けた講習会等を開催しています。

工事の入札では、施工経験を問わず、「経験が浅い若手技術者」や「女性技術者」を工事に配置することを評価する「若手・女性チャレンジ評価型」を実施することで、建設業の新たな担い手の雇用や育成に繋がるよう取り組んでいます。

また、働き方改革の実現に向けて、県発注の建設工事において、週休2日の導入・普及に取り組んでいます。



▲「キャリア教育」の様子



▲資格取得に向けた講習会の様子

DXの推進

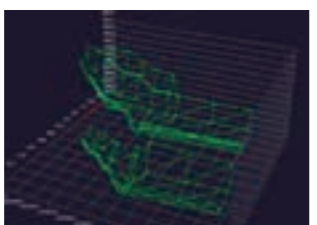
▶ 建設現場の生産性向上への取組

建設現場の効率化や品質・安全性の向上などの生産性向上を目的として、インフラ分野におけるDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進しています。

ICT活用工事、遠隔臨場(WEB会議システム等を利用して現場での確認や立ち会いを実施)、情報共有システム(受発注者間で書類を共有)などのDXの活用に取り組みます。



▲ドローン等による3次元測量



▲3次元測量データによる設計・施工計画



▲ICT建設機械による施工



令和8年度事業内容

▶ 効率化・高度化を図るため3次元モデルの導入を進めます

TOPIC 建設生産・管理システムの効率化・高度化を図るBIM/CIMの導入を進めます

3次元がもたらす直接的効果



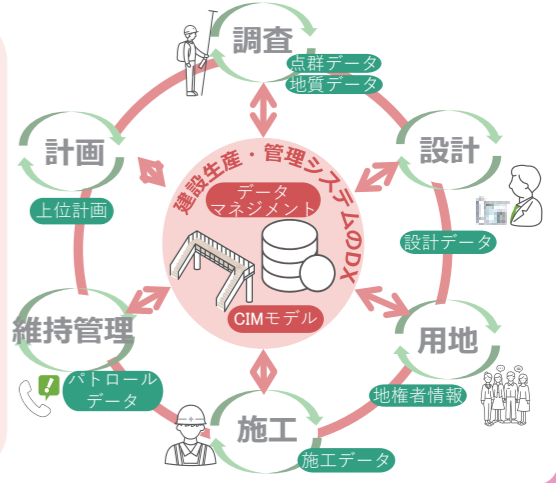
民地側が大型車からどのように見えるかなどの住民からの質問や疑問にも対応できる

BIM/CIM導入によって得られる効果

- ・生産性の向上や職員の働き方改革(省力化等)
- ・設計ミスの削減や工事の安全性向上
- ・住民協議の円滑化
- ・災害時の早期対応 等

国土交通省のBIM/CIM導入によって効率化が顕著であった課題項目

- ① 若手職員は図面を読む経験が少なく発注する工事の完成がイメージしづらい
- ② 地元など関係者と合意形成を図るための資料作成および協議に苦勞



“こんな仕事ができる!!” 若手職員の声(五條土木事務所(入庁1年目))

BIM/CIMの導入が検討されており、工事図面に3次元CADが使われるようになってきています。今後は職員にも3次元CADの操作スキルが求められるようになりますが、研修のメニューに3次元CAD研修があり、職場の研修でスキルを習得することができます。必要なスキルを習得するための研修が準備されているのも、県で働く魅力です。



▲3次元CADの研修風景

“こんな仕事ができる!!” 若手職員の声(建設産業課(入庁1年目))

建設業振興の一環として、学校で行われているキャリア教育や工事現場を訪問し、その様子をYouTubeで紹介しています。撮影現場では、最新技術を駆使して活躍している人、将来建設業で働くために勉強している人、次の世代に魅力が伝わるような体験を考えている人など、建設業に関わる様々な人々の熱意が生身で感じられます。私自身も様々な体験をさせてもらうこともあり、建設業のことを現場で学ぶ貴重な機会になっています。



▲体験授業に参加している様子